

多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会 第2回

日時：平成28年8月6日（土）午後6時10分から9時17分まで

場所：からきだ菖蒲館 ホール

出席者：（基本構想策定委員）柳田委員長、松本副委員長、常世田委員、鈴木委員
寺沢委員、尾中委員、千葉委員、青木委員、辻山委員

欠席：大澤委員

（事務局）清水教育長、福田教育部長、中島図書館長、笹原主査、
阿部企画運営係長、栗崎サービス係長、村野子ども読書支援係長
阿部関戸・東寺方図書館長、福島主事
コンサルタント3名

○ 開会

委員長： 本日は大澤委員より欠席の連絡が入っている。
他委員が出席して定数に達しているため、第2回多摩市立図書館本館再構築基本構想策定委員会を開催する。

○ 報告

1. 分館3館（永山・豊ヶ丘・唐木田）の視察を終えて

委員長： 前回の委員会で地域図書館の現況を見たほうがよいという意見が出て、本日の委員会開催前に、永山図書館・豊ヶ丘図書館・唐木田図書館の3館を見た。皆さんに感想を述べていただきたい。

私の感想から。全国各地・中山間地域に散見される図書館もなくて疲弊した自治体に比べ、首都圏の市には図書館の分館があり、その分館ひとつが地方の自治体の中央図書館に該当するような規模になっているというような地域格差を痛感した。それでも、住民に地域の中で図書館をより良い形で利用したいという希望があるのは当然のことで、その希望に応えていくことは大切なことだ。

永山図書館は駅に隣接していて利用者が使いやすく活気があり、読書席もほぼ満席だった。豊ヶ丘図書館は住宅地にひっそりとある。唐木田図書館は永山・豊ヶ丘の中間のような感じ。委託運営と聞いていたが、見た目や雰囲気は他の直営の図書館と変わらない。企画展示がとても良いし、大切なことだと思う。

図書館業務のことではないが、永山と唐木田には喫茶コーナーがある。利用者にとっては心が解放されほっとする休憩コーナーがあつて良いと感じた。

委員： 各地の従来、先進的といわれてきた自治体で共通の問題になっていることは、地域館・分館の老朽化ということ。昭和50～60年代に作られ先進的なサービスをしてきたところが老朽化している。

今日視察したところは現在のサービスでの地区館とすると規模が小さい。子どもや高齢者には使いやすいが、働き盛りの世代の利用に応えるには難しい。サービスの質とレベルと規模が共通の問題としてあるように思う。課題解決といった踏み込んだサービスには難しい。だが、それを中央館が全て担えるかというわけではない。全体の方向性を考えていく必要がある。

また、長年施設を利用しているとカウンター周りや各コーナーに不要なものが隠しきれずに溜まり、働いている人は気づかないということもある。利用者から見ると老朽化・陳腐化のイメージにもなる。リニューアルをするのか建て

替えを含めて検討するべきと思う。

委員： 今日改めて感じたのは、それぞれの図書館が地域に近いところにある。地元市民に便利に使っていただくという考えで作られたのだろう。よくできていると感じた。雑然とし始め、各館に老朽化が見られるが地域にある図書館そのものを損ねるものではない。これ以上使えないという時が来るが、そのときどきに解決していけば良いのではないか。建て替えようとしてもお金がない、利用率も課題になるかもしれないが「隣近所に図書館のある幸せ」ということを見失ってはならないと思う。

副委員長： 開架室にある本の出版年を確認してみた。20年前のものが開架されている。やはり、もう少し魅力のある資料が並んでいたほうがよいのではないか。

今日視察した3館は多摩市の西側の地域にある。車で廻ったが各館の距離は離れていて、地域のひとが身近に利用するのにうまく配置されていると感じた。なくなると利用者には大変かもしれない。

委員： 拠点館・地域館それぞれに独自性があり、うまく動いているように思う。

永山図書館には相談コーナーがあり、読み聞かせのスペースも整備されている。豊ヶ丘図書館には学習室があるのがおもしろいと感じた。かつて図書館は学習部屋ではない、などと言われた時期もあったが今の図書館には必要なものではないかと思う。唐木田図書館は委託運営ではあるが、企画展示がおもしろい。拠点館・地域館それぞれに必要性を感じた。

委員： 建築家として策定委員会に参加しているので、皆さんとは違った視点で各館を見た。バリアフリー施設の整備状況なども見た。各館それぞれにいろんな問題があると感じたが、別の機会に申し上げたい。まちづくりとしては、どういう地域にあるか、人口はどのくらいかという視点でも見た。今後機会を設けてもらうよう事務局にも提案したので、個別に議論したい。

委員： 地域の行事で、3館の視察には参加しなかった。

地域館については、児童・生徒の居場所、地域との接点として価値があり、学校の立場から、児童・生徒の健全育成についても話題にしていきたい。

委員： 鶴牧に在住していて、個人的によく利用するのは本館で活動では永山図書館を利用している。今日は拠点館として永山図書館、地域館として豊ヶ丘図書館を見た。サービスの仕方の違いがよく解ったように思う。

豊ヶ丘図書館は、本館が現在地に移転する前は西の住民にとって大切な図書館で利用も非常に多かった。現在は落ち着いた利用のされかたとなっている。本館に行くようになって豊ヶ丘図書館にはあまり行く機会がないが、行くたびに展示が変わっている。昔と変わったところでは、児童図書の書架上部に棚が増設されていて本の展示ができるようになっていたことを紹介していただいた。職員が目配りが行き届いているように感じた。

唐木田図書館も同じように感じる。施設的设计上もう少しというところもあるが、資料の展開など努力をされているように感じた。

委員： 永山図書館はよく利用している。豊ヶ丘と唐木田は普段使わない。

職員に困っているところを含めて説明していただき、よくわかった。図書館が好きなんだなども感じた。唐木田図書館は音が響くので「おはなし会は小さな声で」と聞いた。多摩市の図書館にはおはなし室がなくて、欲しいと思っていたが、新しい図書館なのに残念だ。あかちゃん連れの親子にとっても絨毯のコーナーは使いにくいと思う。これから維持していくために工夫がほしい。豊ヶ丘図書館は年を重ねた空気があり、皆に使われている図書館だと感じた。

委員長： 実際に見て回るとよくわかり良い。委員それぞれに違う感想もあった。今後具体的なテーマに活かしていきたいと思う。

(配布資料確認)

2. 前回の宿題の報告

- 事務局： 資料1をご覧いただきたい。ヒアリングの進め方について、前回意見が出た。ヒアリングは、事務局とコンサルタントが選定した団体に行くと説明したところ、ヒアリングを希望する団体を募集し手を挙げた団体も加えて広く意見聴取をするようにと指示をいただいた。
- 資料1のとおり、7月20日から8月9日までを期間としてホームページと図書館内に掲示を行いヒアリング希望団体を募集している。現在のところ1団体から希望があり、8月下旬にヒアリングを予定している。
- 応募団体以外のヒアリングは既に5団体を済ませている。今後2団体を予定していて、整理ができ次第、委員会に報告を行う。
- 資料8、7ページをご覧いただきたい。学校図書館との連携については「多摩市の図書館 平成26年度」に記載があるが、予算については掲載されていないのでバックデータを提供するようにといった議論があった。学校図書館司書のヒアリングの報告と併せて関係数値を資料とした。
- 概要を説明する。平成25年から3年間の学校図書館の状況をまとめている。分析として、児童・生徒数は微増傾向、蔵書数や図書購入費に大きな変化はないが平成28年度予算を合わせて見ると、ひとり当たり図書購入費は微減傾向にある。多摩市は小中学校の全校に学校図書館司書を配置している。また、市立図書館資料と学校図書館資料の一元検索や直接予約などができて迅速に学校図書館に資料提供ができる。調べ学習資料の一時移管などを行って市立図書館が学校図書館のバックアップをしていること等を含めて、評価をするべきかと考える。資料8、8ページには各年度のデータ、9ページには分析したグラフを記載した。
- また、前回、委員長より議事録を議論の素材になるような分類をするよう要望をいただいたので、項目ごとに整理した資料を作成した。
- 委員： 資料8、8ページの表の黒丸について説明をお願いしたい。
- 事務局： 児童ひとり当たりの図書購入費が千円を超えているところに黒丸の印がついていて、そういった学校では児童ひとり当たりの貸出数が100点を超えているという分析ができるかと思う。
- 副委員長： 学校図書館の蔵書冊数に関しては、文部科学省が「学校図書館図書標準」というものを示している。達成状況についてわかれば教えてもらいたい。
- 図書費に関しては、地方交付税交付金関連の基準財政需要額なども参考になる。必ずしも沿う必要はないが、近い金額を充当するのが望ましいとされている。多摩市は全国的な基準と照合したときにどういった状況なのかかわかると評価がしやすい。
- 事務局： 「学校図書館図書標準」との比較については、いまはデータがない。
- 地方交付税の基準財政需要額を多摩市版で置き換えたものでご説明する。地方交付税措置の積算基礎に基づく学校図書整備費等の措置額は小学校18学級に対して60.8万円、中学校15学級で82.5万円をこれを多摩市に置き換えると、小学校は230学級で776.8万円、中学校は91学級で500.5万円の交付税措置がされていると計算できる。多摩市は不交付団体なので、それに見合った額が計上できていないわけではないが、公共図書館との連携に力を入れているということと、学校図書館司書が全校配置されているということが強みではないかと考えている。
- 副委員長： できればもう少し予算を充当してもらいたい。
- 委員長： 文部科学省推奨額の7割程度か。全国的に見てそれほど悪い数字ではない。自治体によって大きく差がある。

他に質問がなければ議事に入る。

○ 議事

1. 前回からの継続事項 (1) これまでの市民の皆さんのご意見

- 委員長： 事務局から説明をお願いします。
- 事務局： 資料2（前回の資料⑥-1）をご覧いただきたい。『第34回多摩市政世論調査』で、図書館に関する質問があった。
- 多摩市の図書館を利用したことがありますか、という質問に対して「利用している」が49.9%、利用している人の年齢構成が女性は30代・40代が多く、男性は40代が多い。ライフステージ別では家族成長前期（第一子が小学生から中学生）がもっとも多く、次いで家族成長後期（第一子が高校生から大学生）が多い。
- 利用しているのはどこの図書館ですか、という質問に対して多くの人が永山・関戸・本館を利用して、永山・関戸を利用しているのは立地している地域の大半がその地域の図書館を使っている。それ以外の地域では近くにある図書館と拠点館の2館を利用する人が多いということがわかった。
- 図書館の利用頻度は、「ほぼ毎日」と「週に1回程度」と回答したのは男性の60歳代が多い。
- 何のために図書館に行くかという質問に対して「本を借りるため」が最も多く「新聞や雑誌、本を読むため」「仕事や趣味などわからないことを調べるため」が次いで多い。
- 市立図書館を利用しない理由という質問に対して「本は買って読む」「図書館にでかけるのが面倒」という回答が多く、「本は買って読む」は60代以上の女性と男性20代で多く、「図書館にでかけるのが面倒」は家族成長前期に多かった。
- 次に『多摩市民まちづくり討議会』というものがあつた。主な意見を抜粋したものを説明する。5回にわけて討議を行っている。
- 1回目に出た主な意見はグループ学習室が足りない、駅近のところの開館時間延長、サービスの市民への周知が足りない。
- 2回目では、実用書がほしい、郷土資料がほしい、専門書が欲しい、視聴覚資料がほしい、絶版の資料が欲しいという意見があつた。
- 3回目ではやはり、図書館のPRという意見が出て、4回目では中央図書館について、5回目ではサービスについて意見が出ている。
- 次に『多摩市読書活動振興計画（原案）』に対するパブリックコメントから印象に残った意見を紹介する。
- ・図書館というと子どもの視点が非常に強かつたが、高齢者の居場所みたいな面もむしろ強くなっている。
 - ・乳幼児のいるお母さんは、なかなか大きな図書館に行けない。
 - ・市民は全館均一サービス維持をかたくなに求めている訳ではない。
 - ・近年、豊ヶ丘や関戸において購入図書が減っているように感じる。そうすると永山に行く頻度が増してくる。
 - ・パルテノン多摩は博物館機能や歴史ミュージアムがあり、そのようなところとの連携はすごく良いことだと思う。
 - ・あそこに行けば何でも調べられるよというのをずっと期待していた。
- 委員長： 「まちづくり討議会報告書」の5回目討議で「市民が求める多摩市の図書館・図書館サービス」が議論されているが、印象に残ったことをまとめていただいた

- い。
- 事務局： この討議の際「市の財政が厳しい」というプレゼンテーションがあったので、意見にその影響が出ていると思われる。その中で「人件費の削減。職員は専門的業務を行い、それ以外は外部委託など」ということと、丘陵地帯なので「移動図書館の復活」ということが印象に残った。
- 委員長： 地域図書館はバス停が近いなど、アクセスの利便性は整っているのか。
- 事務局： 永山・関戸の拠点館は駅に近接している。地域館はいずれも近くにバス停がある。本館は、多摩センター駅から徒歩15分で、歩いて5分程度のところにバス停があるが本数が少ない。本館以外は、公共交通機関から近いところにある。
- 委員長： 高齢化がますます進んでいくので、知恵を絞ってほしい。質問がなければ、次の議事に進む。

2. 策定委員会の構成と進め方について

- 委員長： 事務局から説明をお願いします。
- 事務局： 資料3をご覧いただきたい。前回の策定委員会で5回では少ないという意見をいただいた。最終回は12月か1月か決定していないが、7回にして再提案をしたい。第3回までは様々に意見を述べていただき、それ以降はまとめに入り収束していきたい。
- 委員長： ヒアリングが多岐に渡り日程がきついように感じるが、こなせるのか。
- 事務局： ヒアリングを行う皆さんにもご協力いただいて日程を決めている。
- 委員長： ヒアリングについては、その都度報告を聞かせていただきたい。今後、資料のなかで重要な項目は、強調して見やすくしていただきたい。
- 副委員長： パブリックコメントは第6回策定委員会の内容を反映して行うのか。
- 事務局： その予定でいる。
- 委員： 策定委員会が5回から7回になったということだが、途中で市民への説明会があると聞いた。アンケートの実施などは記載されているが、なくなったのか。
- 事務局： グループごとにヒアリングを行い意見をお聞きする機会がある。第6回と第7回の際にパブリックコメントと市民意見交換フォーラムを予定しており、まだ回数は決まっていない。また各図書館に壁新聞をつくって貼り、ご意見を貼り付けてもらうなどを考えている。
- 委員長： 各回で議事に結論を出すのは難しいかもしれないが、流動的に考えて着地させていきたい。最終回以外は日程の調整が済んでいるのでなるべく出席をお願いします。

3. 図書館の現状と課題Ⅱ

(1) 近年の多摩市図書館の現状と課題

- 委員長： 事務局から説明をお願いします。
- 事務局： 近年の多摩市図書館の現状と課題ということで、資料4,5,6のながれ(時系列)を説明する。
資料4は昨年(平成27年)7月に作成されたもの。この前の平成25年11月の多摩市公共施設の見直し方針と行動プログラムで、市の財政が立ち行かないので地域館4館を廃止するとしたところ、市民から市長への要望書や市議会への陳情書などが出された。そのため、市長との懇談会や意見交換会が設定され、課題を把握しようということで情報共有のため資料4「なぜ、図書館の再構築？」を教育委員会事務局が作成した。多摩市立図書館のあゆみと課題、市議会

の評価、他市との比較、市税や扶助費などの推移などが説明されている。

資料5 多摩市民による市民の情報誌「わたしたちの図書館をなくさないで」は、多摩市読書活動推進計画の策定中に、地域館の存続を求める市民4団体が共同で発行したもの。地域館を縮小・廃止しないでほしいということが述べられている。「『わたしたちの図書館をなくさないで』ができるまで」は発行にいたる経緯が説明されている。

カラー資料「公共施設の見直しと将来像」は、行動プログラムの更新として平成28年7月に発行されたもの。地域館4館を廃止としたが、一旦立ち止まり、どのような形で存続するか市民の皆さんと一緒に考えていく、と説明している。また、本館の整備と図書館全体の仕組みの見直しをすすめている。

これまで地域館・拠点館を6館づくり、本館の移転があった。過去に8館構想というものがあり、地域館をつくりながら最後に中央館をつくろうという構想だった。その間、市の財政が厳しくなるなどの情勢の変化があった。その後、唐木田図書館をつくる際に職員配置ができなくなり、委託運営をすることとなった。当時、大学に運営をお願いする、NPO運営などの選択肢もあったが最終的に委託という形を選んだ。直営で運営するのが厳しいということがあったが、この流れが今に続いているように感じている。

資料4にある「市議会の評価」の以前にも議会の評価が出されていて、図書館の全体像が市民や議会に見えてこない、という意見があった。このような流れがあって、本館再構築基本構想の策定にあたり、本館だけでなく市全体の図書館ネットワークを考えて行くということで策定委員会の委員に議論をお願いしたい。

委員長： 策定委員会で検討するメインテーマの一つということであると思う。質問はあるか。

委員： 地域館は複合施設に入っていて、老朽化の問題を抱えている。複合されている他の施設が代替施設に移転するなどしたときに、建物を廃止したいので地域館がとぼっちを受け、ということもあるだろう。今日視察したなかでは単独館に近いものもあった。施設の複合の度合いや状況に関してわかりやすい資料があればありがたい。

施設維持の費用が問題なのか、定数条例なども関係してくるが正職員の配分など人力的問題なのか。

事務局： 複合のかたちについてご説明する。

豊ヶ丘図書館は児童館・老人福祉館・地区市民ホールが平面的に渡り廊下でつながっているので施設として切り離しやすい形。

東寺方の複合施設は1階が児童館、2階が図書館、3階が老人福祉館と地区市民ホールで、建物が層になっているので図書館だけ取り出すのは難しい。

施設の維持にかかる費用としては2館のことだけでなく「公共施設の見直し方針と行動プログラム」では多摩市全体を考えている。公共施設の市民ひとり当たり総延べ床面積が26市中3位でもあり、ニュータウンの高齢化や人口減少の傾向を考えていくと、施設の改修や建て替えなどを行いながらこれまで通りの床面積を維持することはできないので施設をまとめる、機能をまとめることを提案している。豊ヶ丘図書館はコミュニティーセンターの図書コーナーや中学校の図書室を利用するという案があり、東寺方図書館は改築した小学校をサービスポイントにして資料の受け取り場所にできないかという案があった。

人力的問題に関しては、唐木田図書館のように職員を配置できなかったという事例もあり、今後職員体制として維持していくのが難しいという状況も加味して、資料では全体像が示されている。

施設の老朽化、専門職の配置、財政的な厳しさが交錯した状況にある。

委員長： 20～30年の時の流れを考えると、1990年代では予想できなかった状況

にある。人口構成・経済動向・格差問題など。平成23年の市議会の評価には「今後の持続可能な図書館運営を考えると、現状を維持していくことはもはや不可能である」という厳しい評価がでていいる。市は地域館4館を一度廃止すると示したが、一転、7月発行の政策情報誌では全体の計画のなかで見直し、東寺方は平成35年の大改修時期に考えるとされている。個別の地域館だけでは考えられないが、大規模改修の時期と改修の対象はどういうものか説明をお願いしたい。

事務局： 市はストックマネジメント計画というものを設定していて、施設建設から10年20年30年でメンテナンスする段階を決めている。30年目では、かなり大規模な改修になり費用がかかる。そこでお金をかけて改修して使用していくか検討するひとつのポイントになる。

委員長： 市庁舎なども同じように検討するということか。

事務局： その通りである。

委員： 唐木田図書館の開館時に職員配置ができなかったのが委託運営になった、という説明があった。今後、新本館の開館時にも人の問題は重要になってくると思う。

すこし振り返ることになるが、唐木田図書館の開館にあたって多摩市に中央図書館をつくる会としては、図書館は直営で専門職を配置したほうが利用者にとって良い図書館になると陳情した。市からは新館ができるとはいえ正規職員を増やすことはできないという説明だった。多摩市は他の自治体に比べ職員数が少ないわけではないし、図書館にも正規職員が多くいる。市民としては納得できなかった。新本館の開館の際にも同じようなことが起きるのではないのか。どのような理由で配置できなかったのか、説明をお願いしたい。

事務局： 自治体には定数条例というものがあり、職員の増員には市議会の議決が必要になる。多摩市はニュータウンの開発で人口が増え、一斉に施設をつくり職員を充ててきた。特に図書館・児童館・学童などに手厚く職員を充ててサービスをつくってきた。今後人口構成が変わり、ニーズが変わって福祉行政に職員が必要になっていく。職員定数を変えられない中で学校給食を一部委託にしてその職員を福祉行政にまわす、など改変を行ってきた。正規職員が担ってきたものを非常勤一般職にも働いてもらっているが、職員として雇用するためには、人事評価などの人事管理もする必要がある。

それぞれの自治体で施設の作られ方や成り立ちが違い、職員の年齢構成が違うので一概に比較はできない。かつて多摩市は若い職員が多く先進的と言われていたが、一周まわって人員配置が厳しくなっている。

委員： 全体的な職員構成や時代背景はわかるが、新しい図書館システムを考えて全体を見直していこうということで知恵と工夫がなければ、本館は直営でも、分館は委託になるなど、また人を回せなくて委託になってしまうのではないかと心配している。市民として受けたいサービスを考えたとき、正規職員だけでは難しいかもしれないが、直営で専門職がいて、どこの館でも同じようにサービスを受けられるようにしてほしい。そのような決意があるか聞きたい。直営は難しいと言われているように感じる。策定委員会でも運営について考えていきたい。

委員： 考えるにあたり基礎的な数字を確認したい。図書館の運営費は数字があるが、委託費はどのくらいか。

事務局： 唐木田図書館の窓口業務委託費は平成26年度決算で3,241.9万円。

委員長： 運営については、核心にふれる重要な問題なので今後検討していきたい。次の議事に移る。

(2) ヒアリング結果の報告

委員長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： 資料8をご覧ください。図書館職員、学校図書館司書、市民利用者グループのヒアリング、まとめの順になっている。資料の構成を説明する。1ページを見ていただくと、左側にヒアリングの議論の骨格を示して右側は始めは空欄となっているがヒアリングをした結果埋まっていくということになっている。本日の議題にもなっているが、新しい本館の再編後、地域館はどうなっていくか、拠点館はどうなっていくかという2つにわけて議論していただきたいので、ヒアリングシートもそのように構成されている。それを踏まえてヒアリングの報告を聞いていただきたい。

(図書館職員のヒアリング)

7月7日に図書館職員全体会にコンサルが参加し、図書館職員研究会と称して情報提供とヒアリングを行った。ディスカッションを行って意見をまとめたというより、それぞれの意見を述べた形なので相反するものも出ている。中学生の職場体験をいま行っているが、外から見た図書館とカウンターの内側からでは見え方が違うという感想があった。職員は現状のサービスから今必要なニーズを感じている、という視点からお聞きいただきたい。

1ページ、地域館のいま、そして再編後について。地域密着の良さと人とのつながり、という意見が多かったように感じた。主な意見は、

- ・場を基にした人と人の繋がりが残っていくと思う。
- ・ベビーカーを押してお話を聴きに來られる、二世帯利用者もいる。
- ・車いすや杖をついて來られる利用者。
- ・地域館が多摩市の良いところだと思う。
- ・利用者の年齢層が高くなってきた。規模が小さくなくても地域館を残してニーズに応えたい。ニーズは変わるかもしれないが。
- ・図書館は、誰でも目的がなくても安心して行くことができる場所でそういった場があるようにしたい。(利用者として通った図書館職員の感想)

拠点館のいま、そして再編後について。

- ・相談業務は多い。インターネット環境の充実で図書館に寄せられる複雑な調査依頼は減っているように思う。(本当かという心配はあるが)
- ・夜間開館は、乗降客数調査を参考にして決めているが、毎日やるか考えていく必要があるように思う。
- ・多摩市の図書館は滞在型の利用が多い。

移動図書館の復活・宅配サービスへの動きについて。

- ・宅配サービスで老人ホームに行っている。図書館利用者だった入所者の個人的な要望から始まったものだが、数名に広がっている。
- ・宅配サービスは厚生施設(デイケアセンター)などからも要望がある。
- ・移動図書館は、コストがかかる、利用者が時間に合わせないとならない、雨の日は利用が少ない。
- ・移動図書館は、地域の受け皿・要望がないと復活しにくいだろう。

本館のいま、そして新館について

- ・駐車場。現在は止め放題で道路に列
- ・自動書庫は反対。蔵書管理ができなくなる。
- ・インターネット予約ができるようになって、古い資料も動くようになってきた。

2ページから5ページまでは7月7日に聴ききれなかった質問を職員が書いて提出したものを記載している。

(学校図書館のヒアリングその1)

6 ページ、次に学校図書館司書と教育指導課の担当からヒアリングを行った。

学校図書館の基本的状況が多く聞かれている。

- ・新しい本がない。
- ・調べ物の本で予算を使い切ってしまう。

といったところから、市立図書館からのいっそうの支援が必要かと感じた。

学校司書の研修では

- ・公共図書館の手助けは、あまり感じられない。

というところに問題を感じる。

公共図書館との連携では

- ・公共図書館と資料が一元検索ができる
- ・週3回連絡便がある

などが挙げられていて、連携はとれているかと思われる。

新図書館への期待では

- ・学校図書館の窓口、「人」がほしい。

地域図書館への期待では

- ・子どもは地域の図書館を使う。
- ・学校図書館から地域図書館を使う子どもを育てたい。

といった意見があった。

(子どもの読書読書活動推進市民連絡会ヒアリング)

10 ページ、多摩市では第二次子どもの読書活動推進計画を進めている。市民連絡会という組織がありヒアリングを行った。辻山委員が会長をされている。

文庫活動について

- ・図書館の児童コーナーが充実すれば、子どもと本の関わりには十分かもしれないが、文庫ならではのできることはある。
- ・若いお母さんたちが忙しくてなかなか参加してくれない。

耳の痛いことでは

- ・図書館で行うおはなし会は図書館主催だが、丸投げされている感じがある。

といった意見があった。

地域館のいま・そして再編後について

- ・むかし諏訪図書館がなくなったこと。大きな反対運動はあったが、閉館に反対した人も、便利に永山図書館を使っていると聞く
- ・新聞雑誌スペースが残ったと聞いているが、残すなら図書館員が必要では。諏訪図書館の跡地に本のスペースが残っているが、このコーナーは図書館でないのでメンテナンスできていないことに問題があるかと思う。

- ・東寺方の新しいコミュニティーセンターについて

(仮称)和田コミセンのことで東寺方図書館とは少し離れた場所にできる施設で図書コーナーができる説明もあったが、図書館システムに入るものではないようだ。本があれば良い、予約本が受け取れば良いというわけではない。

地域館の使い方ということでは

- ・分館も専門職を置くべき。

新しい本館についてという項目では

- ・人口密度など違うが自動車図書館なども考えてほしい。

といった意見があった。

(多摩市に中央図書館をつくる会ヒアリング)

12ページ、多摩市に中央図書館をつくる会にヒアリングを行った。
地域館・拠点館のいま・そして再編後について。

- ・分館は学校図書館、保育園、幼稚園への連携サービスの窓口
- ・分館にあるべき資料を検討

浦安や調布の視察をされていて、いまの資料は検討すべきではないかという意見だろう。

- ・本館をつくってほしい気持ちもあるが、ネットワーク全体を考えてほしい。
- ・関戸は多摩センターが遠いので、今くらいの規模が必要。

また、行政資料室についての様々な課題について意見が出された。

- ・地域館に地域資料がない。

という意見では、まったく無いわけではないのだが他市の分館と比較して不十分だということだった。

本館について。

- ・将来的な拡張スペースが必要では。浦安市では、中央図書館の改修を行うようだ。
- ・武蔵野市、町田市では予約本受け取りコーナーを改装している。機能拡張にもやりくりするスペースが必要ではないかという意見。
- ・アクセスと駐車場
- ・職員の質
- ・資料費を今の1.5倍くらい
- ・館籍のあり方
- ・配架と書庫のバランス

などの意見があった。

本館の地域資料については

- ・地域で活動している人のチラシが最近までは本館の玄関付近に集約されていたが、分散してしまった。もう一度、一覧できるような場所をつくれぬか。それによって活動が生まれるといった意見があった。
- ・映像視聴の環境
今はまったくないので意見があった。
- ・企画展示の工夫

その他の意見では

- ・図書館システムは今も機能していて、不足している部分を補えば良いだけで、生まれ変わる必要があるのか。

という意見もあった。

(ヒアリングまとめ-中間報告)

14ページ、ヒアリングのまとめをしている。

図書館員のヒアリングからは

- ・本質的な対策は人材の長期計画的採用と次世代への専門性の伝達にありそうだ。
- ・地域館に残るべき環境と専門的サービスに意見あり。
本日の議事にもあるが、図書館員からも様々な意見が出されたところ。
- ・図書館基本計画(施策プログラム)は図書館員の知見を元に。
これはコンサルの意見であるが、もっと勉強するようにと言われているかとも思う。
- ・来る人を待って対応する直接サービスで本館も地域館も手いっぱい。
- ・新本館は、本格的直接奉仕と全域図書館奉仕のセンターに特化したい。

・みんなで走っているが、クォーターバックが曖昧なフットボールゲーム理念で走ってきたが図書館をサービスシステムとして再構造化したい。これは新しいことは何でもやってみるということで進んできたが、疲弊していると思われたかと受け止めているが、やってきたことをまとめて行く必要があると考える。

市民利用者グループのヒアリングからは

・子供達は親になったがこの活動のバトンランナーにならない。

今後どうしていくのか、という課題。

・専門職人員削減が市民協働の目的ではない。

ボランティアに任せて専門職を削るということと一緒にしないでほしいということ。

学校図書館のヒアリングからは、

・公共図書館への思い。課題はまだある。

課題がいくつか述べられているので、受け止めて考えたい。

「学校図書館は地域の図書館サービスポイントになるだろうか」という項目では、

・学校の安全性確保や市民利用動線分離など、施設の改良要素が多い。

・今は、学校図書館そのものの成長と課題解決を先行させるべきか。

本委員会は新本館について考える場なので、学校図書館サービスの改善までは至らないが、市立図書館からできる支援を考えていきたい。

委員長：

多岐にわたる意見があった。

多摩市は丘陵地帯を開発している。長崎県平戸市は湾が入り込んでいて市内でも車で1時間以上かかる地域があって、中央図書館をつくっても通いきれないので地域の人には使いづらいという不満があった。分館をつくろうにも予算がないので移動図書館を動かそうとしたが、予算削減で移動図書館の駐車場がつけなかった、ということがあった。

高齢者が杖をついていけるところに利用できるものがあり、子どもが利用しやすいものがあると良い。高齢者が孤立しないように、震災被災地の仮設住宅に作られたふれあい広場のようなものも想像する。気軽に行ける場所として図書館が役割を果たすか議論が必要だが、図書館に喫茶コーナーなどがあると構えずに来ることができて、利用を誘うこともあるのではないかな。

市民ヒアリングから出た意見は切実感があるしリアリティーがある。どう受け止めるか意見を聞きたい。まず、地域館から。

委員：

ヒアリング記録で質問がある。市民団体のヒアリングには対象者の名前が入っているが、図書館職員研究会のヒアリングにはない。人数が多いということもあると思うが、人数、できれば職員構成についても記載してはどうか。

多摩市に中央図書館をつくる会のヒアリングで、発言したが記載漏れのところがあるので加筆していただきたい。

「運営については現在唐木田図書館が民間委託されている。市長が運営は直営でやると公言されているので全館そうなることを願っているが、建物の建設についてもPFIやPPP手法は取らずに、市が責任を持って建設に携わったほうが長期的視野では経済的だし、市民の声が反映された良い図書館ができると思う。」

コンサルタント：
ト：

追記する。

委員長： ヒアリング記録に追記して、委員に修正したものの送付をお願いする。
委員： 学校図書館司書のヒアリングについて。多数の小中学校があるなかで1校の司書だけのヒアリングになった理由はどうしてか。
事務局： 学校の夏休みに入り日程調整が難しく学校司書が一堂に会する機会がなかったことと、本日の策定委員会にあわせて1校でもヒアリングできればということで愛和小学校の学校司書にお話を伺うことができた。あと3～4校はヒアリングする予定があるが、夏休み中はご協力いただくことが難しいので9月以降に行い、また策定委員会に報告したい。
コンサルタント： 非常に熱烈な学校司書に話を伺うことができた。学校司書が集まる研究会を行っているそうなので、ヒアリングの議題を研究テーマにして学校司書皆さんから意見をいただくようお願いをした。

(3) 新たな本館ができたときに、地域館に求め続けられていくもの

副委員長： 分館のあり方について、一般に新たな中央館ができて地域館に求められる役割は基本的には変わらないと考えている。そのままでいいというのが個人的意見。中央館も使うという人もでてくるだろうが、高齢者や子どもは移動距離が短く地域の図書館を使う傾向が強いというデータもある。今後は、乳幼児を含めた児童へのサービスを手厚くする必要があるだろう。高齢者に必要なサービスとしては、医療や健康の情報を図書館で提供するといったことが増えているので今よりも手厚くすることを考えても良い。行政ランチになる、というヒアリング意見があった。行政情報の提供や手続きの支援などもできれば良い。来館者を増やす工夫としては、新聞雑誌など、コンテンツが更新されるものを充実させることも考えられる。

委員長： 高齢化社会になっていく。健康などの情報が得られる、大活字本などの利用ができる、気軽に身近に行けるところ、杖をついて行くことができるところがあることは大切になってくるだろう。また、乳幼児期に絵本の読み聞かせができる場所、スペースの取り方に工夫がほしい。
働き盛りの世代に需要のあるような専門性のある資料は中央館に集まっているとより効率的に利用ができると思う。
多摩市は市役所の出張所の配置はどのようになっているのか。行政サービスはそういうところが主体かと思うが。

事務局： 聖蹟桜ヶ丘と多摩センターの駅前に出張所があり、聖蹟桜ヶ丘の出張所は土日も開いている。多摩センターは土曜に開いている。証明書発行に特化したものでは永山駅前にもある。

委員長： 介護や健康相談、社会的なサービスについて、なんでも聞ける窓口は、図書館では難しいのではないか。

事務局： からきだ菖蒲館では、今後、地域包括支援センターの複合を検討している。
委員長： 全ての機能が複合していて、そこに行けばなんでも解決するような施設は理想だが、図書館員が相談にのれるかは議論していく必要があるように思う。
今日視察した3館で、小説類等は出版年が古いものも多かったが、ある作家を系統的に読みたいときなど図書館が力を発揮すると思う。児童書では絵本類はよく揃っているように思う。高齢者が通って楽しいと思うのはベストセラーがたくさん並んでいるような開架室だけではないだろう。資料は司書が考えて揃えるのが良いと思う。行政資料については、地域館では開架されている量が中途半端かと感じた。やはり中央館で充実させるべきだろう。

委員： ヒアリングから、図書館としての専門性をもたせるという話と、地域の居場所づくりという意見が印象に残った。例えばコミュニティーセンターなどがふらっと行ける場所でコミュニティーを育てる場ではないかと思う。地域包括支

援センターとの複合なども検討されているし、高齢者が集まりやすい取り組みなども行っている。居場所というのを図書館が背負うことなのか、地域コミュニティセンターが提供すれば良いのではないか。図書館がなんでも背負わなくても良いと思う。

委員長： 図書館司書が行政相談まで受けるのは大変。役割を考えたい。
コミュニティセンターの役割で考えると、武雄市図書館で利用者が激増したのは、入口にカフェがあり新聞雑誌が読める、開放感があって入りやすいというのが大きな要因だろうと思う。(運営方針や図書館としてのあり方は議論が多く騒然としているが。) からきだ菖蒲館も入口に喫茶コーナーがあり開放感がある。気楽に入ってくつろげ、本を手に取りひとときを過ごし、人と関わられる。武雄市で利用者が増えた要因は従来の図書館よりも気軽に足を運べる空間ができたからだろう。これからは身構えずに入りやすい図書館が望ましい。

委員： ヒアリングの結果をみて、さすが多摩市だと思った。図書館の実績がない地域では、これほど多様な議論が出ない。図書館、市民ともにレベルが高い。

ヒアリングのまとめに「クォーターバックのいないフットボール」とある。貸出、予約はトップクラスの実績があり、利用率も良い。従来型の図書館としては大成功で、これ以上どうしたいかということにきている。

市民も図書館員も考えている新しい方向性は何なのかと考えると、レファレンス機能の強化や働き盛りの世代への情報提供の強化と高齢者と子どもの身近な居場所という2つが出てくる。

例えば塩尻市の図書館では多様な市民が集える、ラーニングコモンズの公共施設版のような事例がある。机椅子を自由に動かすことができグループ同士が声の聞こえるところで話し、新たな交流が生まれるといったことが起こっている。コミュニティセンターと図書館の合築の事例にもなる。

多摩市は高齢化しているというが、どこの地域でも共通の問題。公共施設面積を削減する必要はあるが、図書館以外の施設も同様だろう。市の方針で決定していくべきではないか。

委員長： 塩尻市の図書館複合施設について補足すると、いろんなコーナーがあって区切りがない。開かれた図書館とはこういうことかと思う。読書塾などの企画もあり、様々な工夫をしている。

委員： 地域館のあり方について。「公共施設の見直し方針と行動プログラム」の更新案が発表され、説明会も開かれた。地域館が縮小された場合に地域包括支援センターが複合される案が出ている。必要だとは思いますが、地域館が縮小したところに入るべきかは地域の人と議論してほしい。短絡的に結びつけず、コミュニティセンターの使い方を含めて考えてほしい。

委員： 本日、策定委員に配付した資料について。多摩市に中央図書館をつくる会で行った勉強会をまとめたもので16年経っているが、常世田委員も講演をいただいている。浦安市の分館は公民館との複合が多く2つの機能を活かしてうまく展開している。資料の中に「図書館こそが公民館機能を果たせる」という記載もある。ここにはないが、多摩市立図書館初代館長の伊藤峻氏の講演もあった。ヒアリングの際に「なぜ中央図書館が必要か、自身のことばを探しましょう」という提案があった。今まで様々な提案をしてきたが、中央図書館が必要だと考える私達の原点はこの勉強会だと考えている。お読みいただけるとうれしい。

委員長： 地域館と拠点館と本館と規模の違いがあるが、どのような区分けかを簡単に説明をお願いしたい。

事務局： 蔵書冊数と面積の違いがある。開架室は地域館が500㎡程度、拠点館は1000㎡程度で、蔵書冊数は地域館が5万冊程度、拠点館が10万冊程度となっている。拠点館は駅前にあつて便利に使え、レファレンス機能がある。

- 職員体制上のことだが、拠点館と地域館は親子関係にあり応援態勢がある。
- 委員長： 本日はこれで議事を終了する。
その他、意見などあるか。
- 委員： 今回も傍聴されている方がたくさんいる。傍聴者にも資料が用意されていて良いことだと思うが、持ち帰りができない。多摩市の他の委員会も同様。情報公開という意味でも持ち帰ることができれば良いと思う。委員会で決めれば良いことだと思うので提案したい。
- 委員長： 資料の所属は事務局・行政の問題だと思うが、持ち帰りをしていただけない根拠は。
- 事務局： 根拠としては、修正が必要なものがあるということと、市全体としてのルールがあるので確認が必要。
- 委員長： 市民ヒアリングなどの資料がでていますが、例えば発言者のニュアンス違いの訂正があったり、行政で確定していないものを含んでいるということか。
- 事務局： そういったものも含めて訂正が必要だということ。
- 委員長： 訂正が済んでいれば、次回の策定委員会でお渡しするという事は可能か。
- 委員： 各委員会で公開された資料は、行政資料室で閲覧できるようになっている。検討中のものも経過としてファイリングして閲覧できるようにできたら良いと思っている。コピーすることはできるだろう。事務局で検討していただきたい。
- 時間をさいて傍聴されているのは、それだけ関心の高い方だと思う。資料が作成中であるなどの問題もあるかと思うが、傍聴されている方は了解していると思う。
- 委員： 教育委員会でも回収される資料がある。個人的には資料を持ち帰っていただいても良いと思うが、市のルールに照らし合わせる必要がある。ヒアリング記録などは膨大でその場で読めないだろうと思うが、傍聴にきた人だけに資料を渡して良いのかも考える必要はある。
- 委員長： 委員長からの希望だが、配付したものはできるだけお持ち帰りいただきたい。回収しなければならないものは先に決めて明記しておいていただきたい。
- 事務局： 今日の資料は回収するが、訂正してお渡しできるものは次回お配りしたい。今回の策定委員会の資料については、行政資料室だけではなく各図書館に置いてなるべく多くの方の目に触れるように配慮したい。基本構想策定委員会は市民の皆さんと学ぶ場だと思うので、配付資料については市のルールを確認しながら事務局で検討したい。
- 委員： 公開する資料には、策定委員会の要点録は入っているか。紙媒体の資料を置くのは、本館や関戸図書館、永山図書館だけでなく全館か。
- 事務局： 資料には要点録も入る。全図書館で公開する予定である。
- 委員長： 国の法律ではないし、秘密保護も関連しないので、公開することで市民の関心が高まれば良いことだと思う。
本日はこれで閉会とする。